

みずのわ

学校だより
【第3号】

令和4年5月27日(金)
石巻市立石巻小学校

【読書のすすめ 読後編】

「読書のすすめ」というタイトルは、これまで伝記編（令和2年度第7号）、邂逅編（令和2年度第8号）と書かせていただきましたので、今回で3回目ということになります。

本校では、令和2年度から読書活動に注力してきましたが、昨年度の実態として、次のようなデータがあります。

学校図書室貸出冊数	5, 453冊
年間読書冊数（学校図書室以外のものも含めて）	17, 894冊
個人最多読書冊数	583冊

本には長いものもあれば、数分で読み終わるものもあり、単純に冊数だけで比較するのは危険ではありますが、一つのデータとして参考にしつつ、次なる目標の材料にしたいと思っています。

さて、読書の有意性については、これまで様々な場面でお伝えしてきましたが、「読書活動」とした場合には、単純に読むだけの活動に留めたくはありません。特に、読後の感想文や紹介文など、「書く活動」につなげていきたいと考えています。

なぜかと言いますと、「書く活動」は、4つの言語活動（「聞く」「読む」「話す」「書く」）の最も上位の活動だからです。「書く」ためには、聞いたり、話したり、読んだりしたことを自分の頭の中で整理して、相手に伝わるように表現しなければなりません。文の決まりや漢字も分からなければなりません。

今年度は、読んだ本の感想文や紹介文を書く活動に全校で取り組み、その活動は、タブレット端末上で行います。そして、書いたものは、グーグルワークスペースのクラスルームにある各学級のところに保存して全校児童が閲覧できるようにしたいと思います。全校閲覧のメリットは非常に大きく、これまで作品等の交流は学級内においてか廊下の掲示を見る程度に留まっていたのですが、タブレットを活用した異学年交流により学びの幅が大きく広がります。上級生の作品を下級生が読むことで、自然に「書く力」のレベルが高まることを期待したいと思います。

先行実施している6年生の読後文を紹介します。

本の名前	世界は「」で満ちている
おすすめポイント	感動する・悲しい
感想	全ての章を読むごとに読み手の感情が変わります。自分が変な噂に巻き込まれないために、人を避け、傷つけてしまっているということを作者に言われているようで少し驚きました。会話文以外も全て主人公の行動なので、物語の世界に溶け込んでいるみたいでした。 (水澤雪紗)

P T Aの予算により、学校図書室の管理が電子システム化され、その貸出が5月からスタートしました。このシステムにより、本の貸出が簡易になっただけでなく、児童の読書傾向など、様々なデータの分析ができるようになりました。システム準備の際には、保護者の御協力もいただき、あらためて御礼申し上げます。

(校長／川田知宏)